

令和4年6月6日

令和4年度静岡市協働パイロット事業審査委員会 審査結果講評

令和4年度静岡市協働パイロット事業審査委員会
委員長 深野 裕士

令和4年度の静岡市協働パイロット事業では、7件の協働事業が提案されました。各企画提案について、新規事業一次審査（書類審査）を実施し、これを通過した6件の企画提案を対象に新規事業二次審査（面接審査）を実施しました。

「協働事業」とは、具体的な個別の課題について、それぞれ自らの果たすべき役割及び責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力し合い、又は補完し合って行うものをいいます。

協働パイロット事業においても、本市全体の社会的課題について、本市と実施団体が協働して取り組んでいく提案を期待するものです。

審査においては、次の6つの評価点に基づいて評価・採点を行いました。

- (1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか
- (2) 協働にふさわしい事業か
- (3) NPOの先駆性・創造性を活かした事業か
- (4) 実行性が十分に感じられるか
- (5) 予算の見積りは適正か
- (6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か

協働パイロット事業は試行的な協働事業ですが、これを契機に本格的な協働事業への発展や、継続的な事業実施へのステップアップを目指すものであるため、「(1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか」、「(2) 協働にふさわしい事業か」及び「(6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か」については、特に重点を置いて評価をしました。

新規事業二次審査の結果、以下の2件の企画提案を令和4年度静岡市協働パイロット事業の候補として令和4年度静岡市協働パイロット事業審査委員会が採択しました。

1 若手先生もできる！地域人材と連携してできる！

もういちど幼児公教育現場に自然体験を。

特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会

2 大・小まち探検ゲーム開発を通じた地域コミュニティの活性化プロジェクト

特定非営利活動法人まちなびや

【審査委員講評】

◎若手先生もできる！地域人材と連携してできる！

もういちど幼児公教育現場に自然体験を。

特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会《採択》

「幼児教育を行う幼稚園教諭・保育士への自然体験支援」として事業提案いただきました。

本提案は、環境教育の実施にあたり、専門的知識を持つ職員が不足しているという課題を静岡市と共有した上で、市民・子どもに自然環境と向き合う機会を提供するために、市内2園に対して環境教育を実践するとともに、その様子を撮影し、保育の視点からレクチャー動画を作成・発信することで他園への波及を図るというもので、協働にふさわしいという点や、動画作成を起点として、今後の事業発展が期待できるという点が非常に高く評価され、事業採択となりました。

提案団体はこれまでも数多くの環境教育事業に取り組み、優れた実績を持たれています。環境体験ができる園とできない園、経験が生じさせる分断をつなぎとめる事業となることを期待しています。また、協働パイロット事業終了後も、幼児教育と環境学習指導員の相互の関わり合いなど、さらに発展した形での事業実施をお願いします。

◎大・小まち探検ゲーム開発を通じた地域コミュニティの活性化プロジェクト

特定非営利活動法人まちなびや《採択》

課題テーマ「大谷・小鹿地区における新たなコミュニティの形成事業について」に対する提案をいただきました。

令和元年の日本平久能山スマートインターチェンジの供用に併せ、周辺地域のまちづくりが進められています。本提案は、新規住民の流入や既存の自治会等組織の高齢化に伴いコミュニティの維持が困難になってくるという課題に対し、働く人と住む人をつなぐことで、コミュニティを活性化するための事業となっており、課題テーマの趣旨が十分に踏まえられています。

また、子どもがつくる静岡まちのおしごと図鑑「コ・コドモンデ」の発行など、提案団体が積み上げてきた実績を大谷・小鹿地区のまちづくりに活かせる点や、散策型音声ガイドシステムをゲーム開発に取り入れるといった点から実行性や先駆性が評価され、採択に至りました。

一方で、ゲーム実施の方法については、アナログ的なマップとデジタル的なアプリケーションをどのようにつなげていくか検討する必要があると考えます。学生・行政・団体との話し合いの中でより磨かれた内容で事業が実施されますことを期待します。

●障がい者ク라운による、特別支援学校等向け公演事業
静岡ストパラ実行委員会

「障がいのある子どもたちに向けた文化芸術事業」として事業提案をいただきました。コロナ禍での行動制限により、子どもたちの芸術体験の機会は減少し、また、障がいのある方々は会場へのアクセスが困難であり、より芸術体験から遠ざかっているという現状に対し、障がいを持った方々がプロパフォーマーと共に舞台芸術を創作し、障がいのある子どもたちに向けて公演を行うことを通じて多様な市民の社会参画を実現する事業となっています。静岡市が策定を進めている次期文化振興計画では、誰もが文化を平等に体験する機会を提供することを施策の1つにしている中、本提案は市の方向性に合致している事業といえます。

しかしながら、課題解決のための熱意が伝わる一方で、企画提案書とプレゼンテーションの内容にずれがあり、そのため「予算の評価ができない」や「企画自体を練り上げる余地があるように感じられる」といった意見が委員からありました。

今回は不採択となりましたが、行政との協働によって、さまざまな社会のバリアを乗り越えていくことが期待される事業であるため、今後、本提案をブラッシュアップしていくことによって、誰一人取り残さないまちづくりへ波及することを期待しています。

●若者×企業でつくる「多文化共生のまち」しずおか
特定非営利活動法人 ESUNE

課題テーマ「市民、事業者への「多文化共生」の啓発業務」に対する提案をいただきました。

静岡市ではすべての人が、互いの国籍や民族等を尊重し、助け合い、学び合い、一人ひとりの個性を活かして、ともに行動することができる「多文化共生のまち」を推進しています。本提案は、オンライン・オフラインでの多文化共生の場づくり事業を行うことで、社会的に孤立している外国人技能実習生や、コロナ禍によって留学等で多文化に触れる機会を喪失している学生、学生や外国人住民とのつながりを望む企業の3者をつなぎ、多文化共生を実現するという課題テーマに即した事業であり、今後増加が見込まれる外国人労働者との接点の場として評価されました。

一方で、事業の実施によって誰がどのような状態になるのか、アウトカムをより明確にすることで、行政に求めることと企業に協力してほしいことが、より鮮明に見えてくるのではないかとの意見が委員からありました。

提案団体は、外国人技能実習生と大学生とのマッチング事業の実績があり、現場をよく理解している団体です。今回は残念ながら不採択となりましたが、在住外国人との共生は

本市だけでなく全国を取り巻く課題だと考えます。本提案が目指す成果を具体化することによって、多文化共生のまちづくりの発展に寄与する事業となることを期待しています。

●オンライン版 おうち de お茶ツーリズム
赤鼻アネックス

課題テーマ「静岡市のお茶」の魅力発信によるブランド力向上について」に対する提案をいただきました。

静岡市は、山間地を中心に茶畑が広がる全国有数の茶産地であり、全国からお茶が集まり、お茶の消費も盛んな「お茶のまち」ですが、近年のリーフ茶の消費低迷や、茶価の低迷、生産者の高齢化、担い手の減少、耕作放棄地の増加など、市内の茶業を取り巻く環境は厳しさを増しているという現状に対し、長年クラウンとして活動してきた実績を活かしたオンラインイベント事業を行い、お茶の魅力を発信するという点で、団体の得意分野を活かした提案であると言えます。

一方で、協働するからこそ得られるメリットが明確に見出せないことや競合するコンテンツとの差別化が難しいのではないかといった意見がありました。行う事業によって、何を解決しようとしているのか。その目標に向かうために、この方法は妥当なのかを整理することが大切です。

今回は残念ながら不採択となりましたが、提案団体は高い実行力と企画力をお持ちですので、より良い協働のあり方について行政とともに検討を重ねていくことを期待しています。

●蒲原・由比地区一帯の地域資源をつなぐテーマパーク構想

第1弾：蒲原地区の地域資源である御殿山を活用した地域活性化によるまちづくり
特定非営利活動法人蒲原リノベーションプロジェクト

「蒲原・由比地区の活性化事業」として事業提案をいただきました。

蒲原・由比地区には観光資源が多く点在しているものの、各地域資源間での横の連携は少なく、観光客が長時間滞在するまでには至っていないという課題に対し、提案団体もつ情報や実行力を活かした企画内容となっており、実施の背景や課題認識は適切であると評価されました。

一方で、行おうとしている事業内容については、「もっと具体的にイメージできるくらいまでの落とし込みが必要だ」とする意見がありました。「この事業によって何がなされ、その結果として課題がどのように解消されるのかの説明が不足している」との意見もありました。また、市との協働によって得られる効果については、より具体的な検討が必要ではないかといった意見がありました。

今回は残念ながら不採択となりましたが、地区における課題認識は明確であり、また各分野に長けたメンバーが揃っていることで、高い事業実行能力を備えられていると考えます。今後とも、そのノウハウや実行力を活かし、蒲原・由比地区の「誰もが住みやすいまちづくり」に貢献いただくことを期待しています。

●静岡市のゴミのポイ捨ての現状の定性的調査・分析

特定非営利活動法人フードツーリズム研究所

「ポイ捨てゴミの問題の解決」について事業提案をいただきました。

本提案は、ゴミのポイ捨ての対策に有効な施策立案のための基礎データ作成のため、美化活動を通じて市内のポイ捨てゴミのデータ収集と分析を行い、市の施策に反映させるという事業となっており、定性的な調査を行うことで、そのゴミの種類ごとの調査が可能となるため、静岡市にとってもニーズがあるのではないかと評価されました。

一方で、ゴミの量やゴミの種類に関しては、事業実施日の天気や人の流れで結果が左右される可能性があるため、年4回の調査結果が市のポイ捨ての現状を正確に把握したものとなるかについて懸念があります。また、市内において、同様の環境美化活動をしている団体が数多く存在しているなか、先駆性という点でも評価は低くなってしまうという意見もありました。

今回は不採択となりましたが、事業内容について、市内の状況をより適切に把握できるような工夫を検討していただくことで、より実行性のある事業になることを期待しています。